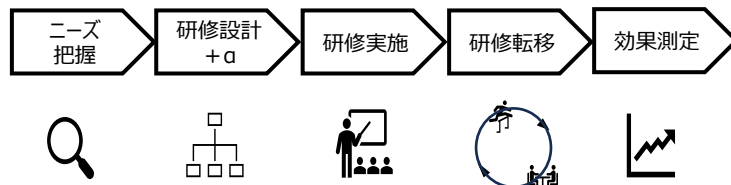


研修効果測定の基本知識

■ 人材開発の業務フローと研修効果測定

ビジネスと連動する人材開発の仕事の流れ

- ・ 研修効果測定は最下流のように思われていますが、それは誤解です。
- ・ 実は、最も上流の経営幹部と研修について話し合うときから始まります。



■ なぜ効果測定を学ぶことが必要か？

- ・ 何が研修成果なのか、実務にどう活用することができるのか、経営からも事業からも説明が求められています。
- ・ また、次のような誤解を解消するためにも研修効果測定の基本をきちんと学ぶ必要があります。

©2025株式会社ヒューマンパフォーマンス

- 研修効果の4レベルのとり、レベル1の研修満足度は効果のひとつである
- 研修満足度が高ければ、特に何もしなくても職場での活用や行動変化が進み、成果業績も改善する
- 研修アンケートを工夫すれば簡単に研修効果を測定できる

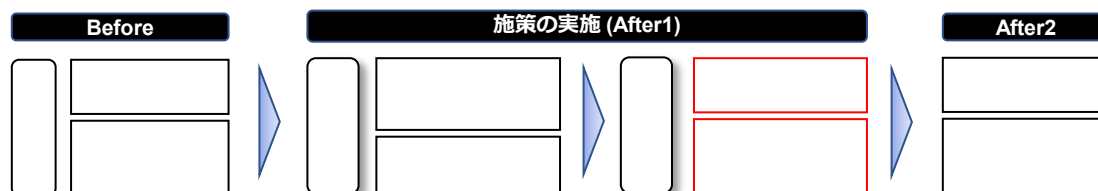
■ どんな悩みを解決できるのか？

現状のお悩み（例）

- ・ 研修アンケート以外に研修効果測定の手法を知らない
- ・ 幹部から「研修満足度は研修効果ではない」と言われ反論できない
- ・ 研修実施後になって効果測定のことを検討し始め、研修アンケート以外に打ち手がない
- ・ 幹部に「研修アンケートの集計結果、受講者コメントは本当に知りたいことではない」と言われる

受講後の部門イメージ（例）

- ・ 幹部に3つの効果測定手法、新4レベル、ROI、サクセスケースメソッドの違いを説明できる
- ・ 上流で幹部と話し合って「研修成果」とする「指標と重要行動」を決める
- ・ 上流で研修成果を幹部と決めているので、研修実施後は手順通りに行動変化や指標の変化を調べる
- ・ 上流で幹部と決めた「研修成果」や「報告形式（定量、定性、前後比較など）」で報告する



■ なぜできるのか？

- ・ 最初に研修効果で悩むよくある「前提とパターン」を確認し、失敗の原因を確認します
- ・ 人材開発業務の上流、「ニーズ把握と研修設計+α」の段階で取り組むことを確認していきます
- ・ 人材開発部内でよくある失敗を演習の題材にするので、職場に戻って何をすればよいのか具体的なイメージを持つことができます

オンライン版 公開コース 2025年

● 学習目標	研修効果測定の考え方の変化、よくある失敗例、主な手法と注意点を説明できるようになる			
● 対象	企業内の人事・人材開発、技術系人材開発の管理職・担当			
● 日程	① 6月 12日 (木)	13:00～17:00	③ 10月 16日 (木)	13:00～17:00
	② 8月 28日 (木)	13:00～17:00	④ 12月 18日 (木)	13:00～17:00
● 講師	鹿野尚登	● 事前学習あり	● 定員	12名 (最少開催4人)
● 費用	1名様 33,000円 (税込み)			

■ プログラム (オンライン研修、4時間)

1. 研修効果で悩む「前提とパターン」 ・ 演習1: 人材開発グループ香川さんの悩みー営業部長の不満 ・ 演習2: 人材開発グループ香川さんの悩みー仕事の進め方 2. 研修効果測定は上流から始まる ・ 演習3: 人材開発グループ香川さんの悩みーニーズ把握 3. 3つの効果測定手法ー新4レベル(2016)、ROI(2020)、サクセスケースメソッドの違い ・ 演習4: 人材開発グループ香川さんの悩みー効果測定 ・ 3つの研修効果測定手法の違い ・ カークパトリックの新4レベル(2016年) ・ フィリップスのROI(2020年) ・ サクセスケースメソッド 4. 行動レベル重視の研修アンケート ・ 演習5: 人材開発グループ香川さんの悩みー研修アンケート 5. 研修成果の高い2事例 ・ 事例1: チェーン店 リーダーシップ研修 ・ 事例2: コンタクトセンター パフォーマンス改善 ・ 演習6: 研修成果の高い2事例の違い まとめ ・ 演習7: 人材開発グループ香川さんの悩みーもう一度やり直すとしたら	■ 特徴 ・ 人材開発担当が研修効果で悩みがちなケースを素材にしています ・ 人材開発業務の上流から、演習を通じて注意すべき点を見ていきます ・ カークパトリックの新4レベル(2016)、フィリップスのROI(2020)、研修アンケートのツールハイマー(2022)など、最新の情報を解説します ・ インタラクティブに進行していきます
--	--

■ 受講者の声

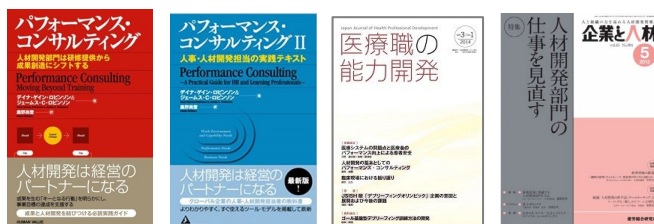
・「研修効果とその測定方法を早い段階で事業部と合意する」という考え方を活用したい。
 ・特にクライアントの抽象度の高いニーズはそのままにせず、「ゴールから考えましょう」、という議論をしようと思います。
 ・DEIとかコンプライアンスの研修にツールハイマーさんのアンケートモデル使ってみようと思います。
 ・今回教えて頂いた内容は部門のマネージャーや主任クラスには、担当者に教えられるレベルで理解してほしい内容でした。(総合電機・人材開発)

・今回学んだ「ニーズ把握」を徹底して実践したい。
 ・まず、「今解決すべきものは何なのか?何をもって成果とするのか」が明確でないと、「設計」も、「効果測定」もできない。目の前の事象に踊らされず、ニーズの深掘りをしたい。
 ・特に、「社長や幹部が言ってるから…」といった上位職向け研修の企画の際に活用しようと思う。
 ・また、研修アンケートは、よくある満足度の5段階評価ではなく、回答者の解釈がブレない、具体的な行動ベースの尺度を活用したい。(システム開発・人材開発)

■ 人材開発担当者向け研修実績

人材開発担当者向け研修実績	485社	1521人
パフォーマンス・コンサルティング	202社	884人
研修企画・設計の基本	201社	310人
企業内実施 平均受講者数	16.0人/回	

■ 翻訳・論文・解説記事



※ 慶応MCC、リクルートマネジメントスクール、JMAなど、出講実績も含む

お問合せ

株式会社ヒューマンパフォーマンス
 〒251-0027 神奈川県藤沢市鵠沼桜が岡2-1-23
 TEL・FAX 0466-47-7231

E-mail: h-shika@human-performance.co.jp
<http://www.human-performance.co.jp>

	人材開発担当向け研修コース内容	時間目安
人材開発の基礎を固めたい	パフォーマンス・コンサルティングの基本 ～事業・人材開発ニーズの把握のコツ～	対面クラス：1日 オンライン： 4時間×2回
	研修企画・設計の基礎研修 ～学習コンテンツと全体構成の決め方のコツ～	対面クラス、オンライン 4時間、1日
	研修効果測定の基本知識 ～よくある研修効果測定の失敗をしないためのコツ～	対面クラス、オンライン 4時間
基本から最新の動向までざっくりとをおさえない	ビジネスと連動する人材開発部の基礎 第1回 パフォーマンス重視の人材開発の業務フロー 第2回 パフォーマンス・コンサルティングの基本 第3回 ビジネスと連動する人材開発の組織・能力要件・モデル 第4回 研修転移とOJT支援とパフォーマンス改善	対面クラス、オンライン 3～4時間、1日
	KPI改善に連動させる研修企画・設計 第1回 担当講座の学習目標と全体構成を見直す＊ 第2回 学習モジュールのコンテンツと演習を見直す 第3回 担当講座をIDの原則で再設計する	対面クラス、オンライン 4時間、1日
	上流から設計する研修効果測定 第1回 研修効果測定の基本知識 第2回 最初に研修成果を定義しよう＊ 第3回 職場で活用した成功事例を報告しよう 第4回 ROI勉強会-1 レベル3・4データの収集計画 第5回 ROI勉強会-2 ROIのデータ分析計画	対面クラス、オンライン 3～4時間
	研修転移とパフォーマンス改善 第1回 研修転移とOJT支援とパフォーマンス改善	対面クラス、オンライン 3～4時間
	はじめての人材開発担当 ～人材開発担当の仕事の仕事の全体像をつかもう～	リクルートマネジメント スクール公開講座 オンライン 3時間

- ・ ご関心のあるコースについて、下記までお問い合わせいただけますと、詳しい情報を送付いたします。
- ・ 時間目安はご参考です。「情報提供レベルでよい」「きちんとスキル化したい」など、貴社が期待される学習目標や到達レベル、また、参加者人数によって実施時間や方法は変わります。
- ・ 詳しくは貴社のご要望を承り、設計致します。対面、Teams、Zoomなどで実施しています。

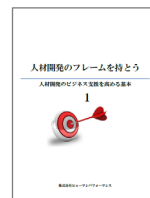
＊ 研修会社、コンサルタントの方はお断りしています



人材開発のフレームを持とうー 1 ～人材開発のビジネス支援を高める基本～

P55

- 1章 事業成果に貢献する人材開発部門になる
- 2章 人材開発の基本としてのパフォーマンス・コンサルティング
- 3章 コロナ後の人材開発の基本－ATD Handbook 2022
- 4章 人材開発の仕事を見直す本と動画
- 5章 パフォーマンス・コンサルティング+インストラクショナルデザイン



人材開発のフレームを持とうー 2 ～人材開発部の運営効率と能力要件～

P58

- 1章 事業指標と研修指標と人材開発部門の経営 2020
- 2章 日米の人材開発調査-ATD Industry Report 2018と比べてみよう
- 3章 ATD 2019ケイパビリティモデル-これからの人材開発担当
- 4章 これからの人材開発責任者（CLO）に求められる役割
- 5章 The Chief Learning Officer（2007）で印象に残った17人のCLOの言葉



人材開発のフレームを持とうー 3 ～オンライン研修時代の研修設計と研修転移～

P54

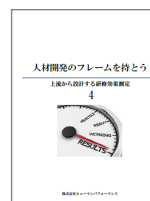
- 1章 オンライン研修時代の人材開発の4つの変化 2020～2021
- 2章 オンライン研修設計の実務に役立つ本・動画
- 3章 研修成果を高めるために－最初に研修成果を定義しよう
- 4章 研修転移のモデルと事例をみてみよう-6Ds 2014～2015
- 5章 研修転移の進展-ラーニングジャーニーとチャットボット 2019



人材開発のフレームを持とうー 4 ～上流から設計する研修効果測定～

P61

- 1章 研修効果で悩む「前提とパターン」を変えよう
- 2章 研修効果測定の4つの事例をみてみよう 2006～2021
- 3章 研修効果測定のカークパトリックの新4レベル（2016）
- 4章 研修効果測定のルーチンにしよう－サクセスケースメソッド
- 5章 研修研修効果測定 フィリップスのROIモデルの変化 1997～2023



パフォーマンス改善する人材開発 ～パフォーマンス改善の動向をおさえよう～

P42

- 1章 パフォーマンス改善とは
- 2章 パフォーマンス改善する人材開発
- 3章 人材開発の実務に組み込まれたパフォーマンス改善
- 4章 パフォーマンス改善を実践するCLO（人材開発責任者）



はじめての人材開発担当 ～人材開発の全体像をつかもう～

P33

- 1.人材開発の前提－目的・顧客・視点・成果指標
- 2.人材開発のふたつの業務フロー
- 3.人材開発担当の実務と注意すること
- 4.研修成果が明確な事例の特徴
- 5.人材開発担当に必要な能力と自己啓発

